

伊方再稼働 否定的68%

県民世論調査 安全性不安89%

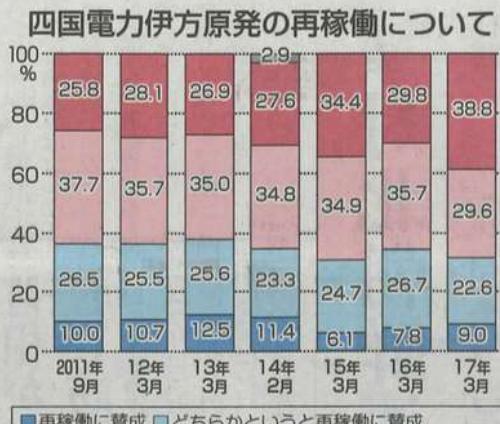
伊方原発

異種問題

2016年8月に3号機
再稼働した四国電力伊方

に否定的な意見が68・4%だったことが10日、分かった。11年3月の東京電力福島第1原発事故後の計7回の調査で、15年3月の69・3%に次いで高く、不安感が根強い実態が浮き彫りになった形だ。

能免「違法」



伊方原発で重大事故が発生した場合の住民の避難計画に関しては「実効性はない」「どちらかというと実効性はない」が計61・3%で、前回の計50・2%から11・1%増えた。避難で不安な点に関する問い合わせでは、過半数の55・7%が「被ばく」と回答した。

効活用する方針で検討している伊方原発2号機は「魔
炉にすべきだ」「どちらか
というと魔炉にすべきだ」
が計78・0%。2号機は1
982年の運転開始から19
日で35年になる。

全3基が運転停止。3号機は15年7月、国の原子力規制委員会の審査に合格した。10月に中村時広知事が認証取得



愛媛国体
カウントダウン

再稼働に同意。一方、1号機は16年5月に廃炉となつた。

2017.3.11